

具体的な  
取組

## 生成AIとの「共創」による学際的グローバルシチズンの育成

### ■探究的な学びによる文理・学科横断を目指す

本校 (SIT) ではデジタル社会を主体的に生きる力と、本校の教育目標である「グローバルシチズンとしての資質・能力」を育むため、「総合的な探究の時間」を軸に、「デジタル×探究」的な学びを実施。生成AIを人間の創造性を拡張する「共創者 (Co-creator)」と位置付け、教育DX戦略アドバイザーの笹埜健斗氏 (岡山大学特定教授/慶應義塾大学SFC研究所上席所員) と連携し、以下の3本柱で教育DXを推進している。

#### 1. 生成AIとデータサイエンスによる「探究の深化」

エビデンスに基づいた探究を実現するため、データ分析の手法やデータサイエンスの活用に関する講座を実施。また、生成AIを壁打ち相手として活用することで、情報収集・整理の効率化を図り、例年見られていた探究初期の停滞感を軽減。これにより、生徒は問いの検討や仮説構築により多くの時間を充てられるようになった。

#### 2. SIT Creative Labの整備による「社会実装の具現化」

高性能PC、Adobe Creative Cloud、3Dプリンタ等を備えた「SIT Creative Lab」を新設し、探究活動の成果を形にする環境を構築。グローバルビジネス科の商品開発や

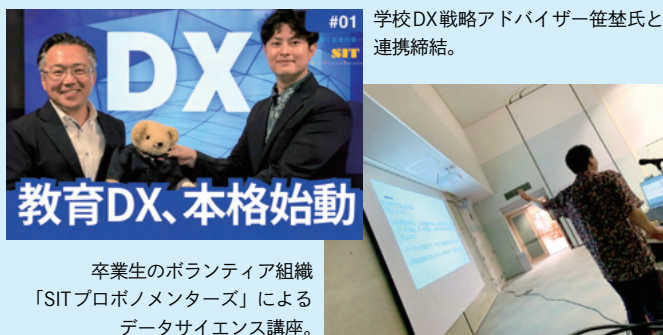
美術部の創作活動にも活用され、3年次の「課題研究 (プロフェッショナル探究)」では、デジタル技術を用いたプロトタイプングを通して、社会課題の解決策を具体化している。

#### 3. 4学科の知見を融合する「文理横断カリキュラム」

普通・国際文化・理数工・グローバルビジネスの4学科を有する強みを活かし、DX・探究を共通言語とした学科横断型カリキュラムの構築を進めている。各学科の専門性を掛け合わせることで、単独学科では成し得ない多角的かつ実践的な学びの実現を目指している。

### ■「総合的な探究の時間」におけるデジタル技術の活用

令和7年度より、「総合的な探究の時間」の活動に生成AI・データサイエンスの活用を組み込んで、各学年の発達段階に応じた「情報活用能力」と「探究力」の育成を行っている。1年次の「グローバル探究」では、4学科混合クラスで地域課題を題材に探究を進め、RESASなどのオープンデータを用いた現状分析と、生成AIを活用した対話的な思考支援により、問いの質の向上を図っている。2年次以降は、調査・分析・検証の各段階でデジタルツールやデータサイエンスの活用を広げている。



成果と展望

## ICTと生成AIが支える主体的な学びと探究コミュニティの形成

### ■AIが日常に根づく学びと教員の意識変容

生成AIは単なるツールにとどまらず、日々の学習や業務に自然に組み込まれ、新たなアイデアの創出や思考の深化を補助するパートナーとして活用されつつある。教員においても、「機器があるから使う」段階から、「ICTを使って授業や業務をよりよくしたい」という能動的な意識への変化が見られた。

### ■生徒主体の探究コミュニティの形成

「AIで自分の思考を広げ、テクノロジーの力を生かした探究活動」をスローガンに、笹埜氏の協力のもと、有志生徒によるDX推進探究チーム「NEXT INNOVATORS」を発足。課外活動として位置付けることで、学年や教科の枠を超えた自由な探究が可能となり、生徒同士が刺激し合う探究コミュニティの形成につながっている。